

## “cultivation” についての気づき

Lesson Extraordinary 受講生 Y.B.

先日、お盆休みに父の実家のある岩手県八幡平市に帰省し、数日間滞在する機会がありました。久しぶりに子どもの頃から私のことを可愛がってくれる“おばあちゃん”と再会し、一緒に過ごした生活を通じて、特に“cultivation”について私なりに気づいたことを記述させていただきます。

今回の滞在では、おばあちゃんや親戚の人たちと一緒に畑に行ったり、郷土料理を教えてもらったり、大勢で食卓を囲んだり・・・という田舎暮らしをすることが何よりの贅沢であり、学びの時間でした。



特に、ある朝に行ったじゃがいもの収穫体験は、“cultivation”について深く考えるよい機会になりました。おばあちゃんのお手伝いをする！と宣言をして、帽子から長靴まで全身を農作業着でコーディネートしてもらい、はりきって出かけた私ですが、大変な作業や暑さから、5分もすると汗が噴き出してきて、すぐに根を上げそうになりました。慣れない姿勢で固い土を掘り起こしながら、ふと気づいたこと。それは、「自分は今、収穫だけを行っているけれど、土を耕し、苗を植え、雑草をとり、収穫まで育ててきた数ヶ月間の苦労は、この何倍もあるのだ！」ということでした。これは簡単に根を上げられないと思いながら、無心で収穫を手伝いました。なかなか上手く収穫できず、時間がかかる私に、「慌てなくていい」、「休み休みやりなさい」と笑顔で声を掛けてくれながらも、ものすごい手際のよさで私の倍以上の働きをしてるおばあちゃん。私の“cultivation”は、まだまだ実行が伴っていないと痛感した瞬間でした。



収穫が終わり、ほっとして家に戻ろうとすると、おばあちゃんだけが畑に残って、さらに別の畑の草むしりをして帰るとのこと。私は、情けないことに体力も気力も消耗していたので、80歳を超えたおばあちゃんの元気さに驚きましたが、それがおばあちゃんの日常のようで、何でもない顔をして次の作業に取り掛かっていました。畑からの恵みを得るためには、私が想像する以上の様々な労苦が伴うことと思います。そして、それを当たり前のこととして、黙々と作業を続けるおばあちゃんの後ろ姿を見ていたら、銀座書齋や、森のギャラリーに飾られているミレーの絵画が頭に浮かびました。



おばあちゃんと過ごした数日間、私が感じたことは、おばあちゃん自身がそれを全く意識することなく、常に自然に、周りの誰かの幸せや喜びのために働いているということでした。おばあちゃんの周りには、インターネットや携帯電話はありません。目もあまりよくないので、TVを観たり、本を読んだりすることもほとんどしないようですが、365日、休むことなく働き、毎日笑顔で楽しそうに過ごしています。文明に対して過多に頼ることはせず、自然と共に生き、その中で知恵を磨き、その知恵を世代間伝達していく姿は、本当の意味で“civilize”された生き方と言えるのではないのでしょうか。

子どもの頃から、たくさん可愛がってもらったおばあちゃんですが、今回の滞在ほど「今、この時」を一緒に過ごせることを、貴重に思ったことはありませんでした。それは、間違いなく、英会話道場イングリッシュヒルズでの学習体験が関係しています。特に、以前、生井先生から「人間の知の歩み」として、(1) cultivation、(2) civilization、(3) naturalization という3つのステージについて講義をしていただいたことによって、今回、様々な気づきを得ることができました。

もちろん、全ての人間が3つのステージに到達できるわけではありません。大切なのは、今、この瞬間をどう生きるか、そして、その時間を黙々と積み重ねていくことにほかなりません。理性的存在者として「畑を耕す」経験を積み重ね、“naturalization”という“高次のcultivation”の境地へ達するのは易しいことではありませんが、今回の経験を通じて、私なりに毎日をおろそかにせず、大切に過ごしたいと、改めて感じた次第です。